

～子どもたちに胸を張って引き継げるまちをめざして～ やまがた地域防災講演会 2025

講師



北学院大学名誉教授

平吹 喜彦氏

■専門分野 環境生態学・ESD（持続可能な教育）・植生動態学
■活動概要 「地域が立脚する自然」を軸に、学生・専門家や住民、市民・行政・企業の皆さんとの協働を大切にしながら、自然とヒトのよりよい関係の探求と構築に取り組む。二〇一一年三月の東日本大震災以降、仙台湾南部海岸地域を中心に実践的な活動を行う。

一九五七年 山形市に生まれる。市立第五小学校、市立第一中学校、県立山形東高等学校を卒業。一九七六年 東北大学理学部生物学科へ入学。一九八一年 宮城教育大学教育学部助手。二〇〇五年 東北学院大学教育学部教授。二〇一三年 東北学院大学地域総合学部教授。二〇二五年 定年退職。

激動する時代の 「自然」へのまなざし 東日本大震災と 復興まちづくりを通じて

2024.11.14 / 仙台市 新浜海岸の鳥瞰

一四年前に発生した東日本大震災。

その後も、次々と発生する自然災害。

激動する時代において、先端科学はさらに

地球規模の気候変動や

日本列島を揺るがす巨大地震・津波が

迫り来る、未曾有の危機が差し迫っていることを警告しています。

講師・平吹喜彦氏は、一九五〇年代後半に山形市で生まれ、

自宅近くに農地や木立、

ため池などが残存する市街地外縁で

昆虫や植物の採集・魚捕り、

ハイキングなどに親しみながら育ちました。

一九八〇年代以降の約四〇年間は

教員養成大学や教養学部で

生態学、自然・環境教育、

理科教育、持続を可能にする教育を担当する教員として

教育や研究、社会貢献活動に関わってきました。

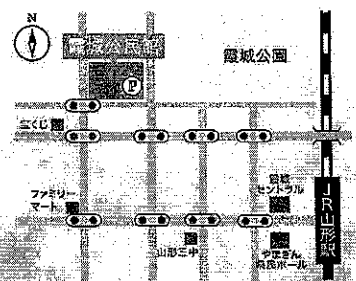
平吹氏の視点を通して、

私たちを取り巻く「自然」の尊い営みのあり方から

得るべき探求と

学びの観点をともに見つめる機会といたしましょう。

入場
無料



どなたでも参加できます。

日時 令和7年 11月1日[土]
10:00~12:00 (開場9:30)

会場 霞城公民館3階 講堂

山形市城西町2-2-15 TEL.023(643)2687

主催:第十地区市民運動推進協議会、第十地区自主防災会連絡協議会、霞城公民館

東日本大震災(東北地方太平洋沖地震・津波)による攪乱

事例地とする仙台湾岸の被災状況、山形県内を含む日本各地で頻発する気象・土砂災害への言及(「私ごと」としての災害認識)。

海岸林内陸側の
水田を覆う瓦礫
(2011.4.17)

砂泥と漂流物に覆われた
大津波後の水田
(2011.6.3)

大津波で地上の構造物が
ほぼ消失した集落
(2011.7.22)

なぜ、激動の時代に
「自然」に着目する？

- ・活動基盤である景観生態学の解説
- ・人類の営みに由来する地球・地域環境の不可逆的な急変・災害多発、
「自然との賢い向き合い方、持続可能な地域づくり」の重要性・課題について学びます。

被災した海辺で、「みんな」で継続してきた地域特性に根ざした復興まちづくり

甚大な被害を受けた生態系(エコトーン)のモニタリング、自然の恵み(生態系サービス)と自律的再生力(生態系レジリエンス)の重要性、里浜の伝統的な生活様式の掘り起こしと活用、住民が主体となった活動の重要性。

大津波攪乱跡地で
自律的に再生する海岸林
(2013.6.4)

自律的に再生する
砂丘植生
(2013.5.23)